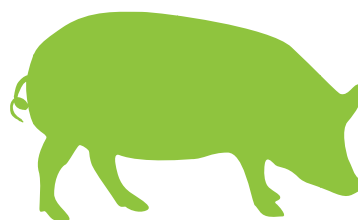


豚肉

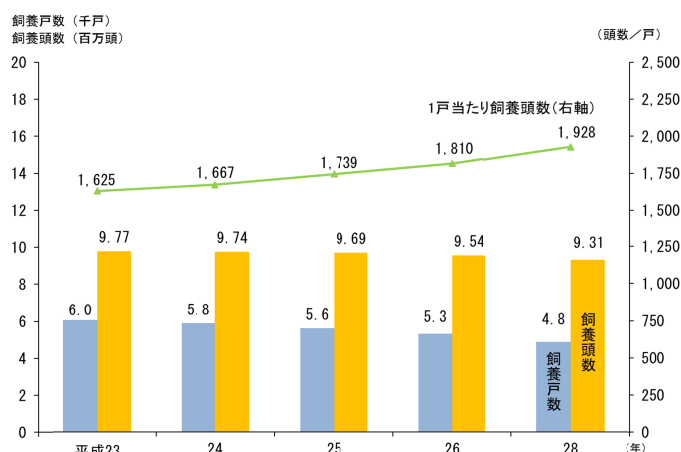


◆飼養動向

28年2月現在の1戸当たり飼養頭数、6.5%増加

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、平成28年は、4830戸（平成26年比8.3%減）と、かなりの程度減少した。飼養頭数は、飼養戸数に比べ減少幅は小さいものの、21年以降減少傾向にあり、28年も931万3000頭（同2.3%減）と、わずかに減少した。1戸当たり飼養頭数は前回から118.5頭増加して1928.2頭（同6.5%増）となった。また、子取り用めす豚の1戸当たりの飼養頭数も前回から8頭増加して214.4頭となった。依然として小規模生産者を中心に廃業が進み、飼養戸数が減少したことに加え、飼養頭数も減少傾向で推移しているものの、1戸当たり飼養頭数は増加し大規模化が進行する傾向が続いている（図1）。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：各年2月1日現在。なお、28年は概算値。

2：平成27年は世界農林業センサスの調査年のためデータなし。

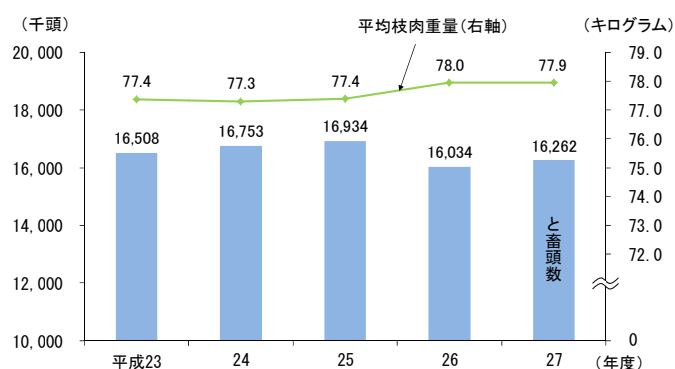
◆生産

27年度の生産量、1.4%増加

豚のと畜頭数は、27年度は前年度に発生した豚流行性下痢（以下「PED」という）の影響から回復し出荷頭数が増加したことから、1626万2300頭（前年度比1.4%増）と、わずかに増加した。

また、1頭当たりの平均枝肉重量は、26年度はPED発生に伴う出荷自粛の影響により、肥育期間が長くなったことから、平均枝肉重量は78.0キログラムと増加し、27年度も77.9キログラムと前年度並みで推移した（図2）。

図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量



資料：農林水産省「食肉流通統計」

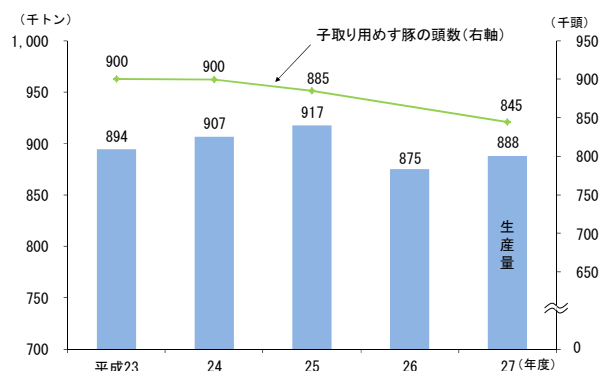
注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量は、長年にわたって大きな変動は見られず、安定的に推移している。平成 25 年度は、出荷頭数が増加したことなどから 91 万 7500 トン（同 1.2% 増）と、わずかに増加した。

26 年度は、前年度の猛暑の影響、国内での P E D 発生の影響などにより出荷頭数が減少したことから、87 万 4900 トン（同 4.6% 減）と、やや減少した。

27 年度は、前年度に発生した P E D の影響から回復し出荷頭数が増加したことから、88 万 7600 トン（同 1.4% 増）と、わずかに増加した（図 3）。

図 3 豚肉生産量および子取り用めす豚の頭数



資料：農林水産省「畜産統計」、[食肉流通統計]

注 1：生産量は、部分肉ベース。

2：子取り用めす豚の頭数は、各年 2 月 1 日現在。平成 27 年は世界農業センサスの調査年のためデータなし。

◆輸入

27 年度の豚肉輸入量、1.2% 増加

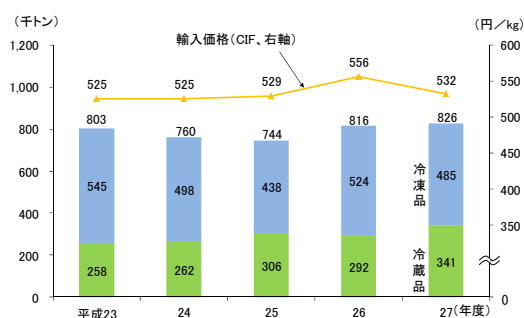
豚肉

豚肉の輸入量について、平成 25 年度は、冷蔵品が増加したものの、冷凍品が減少した結果、合計で 74 万 4300 トン（前年度比 2.0% 減）となり、2 年連続で減少した。

26 年度は、現地相場高などから冷蔵品は減少したものの、国内における P E D 発生による生産量減少見通しから、冷凍品が大幅に増加した結果、合計で 81 万 6200 トン（同 9.7% 増）と、かなりの程度増加した。

27 年度は、冷凍品は、輸入量が多かった前年度の反動もあり減少したものの、冷蔵品は主要産地である北米において、P E D の沈静化により生産が回復したことなどから大幅に増加した結果、合計では 82 万 5600 トン（同 1.2% 増）と、わずかに増加した（図 4）。

図 4 豚肉の冷蔵品、冷凍品別輸入量および輸入価格

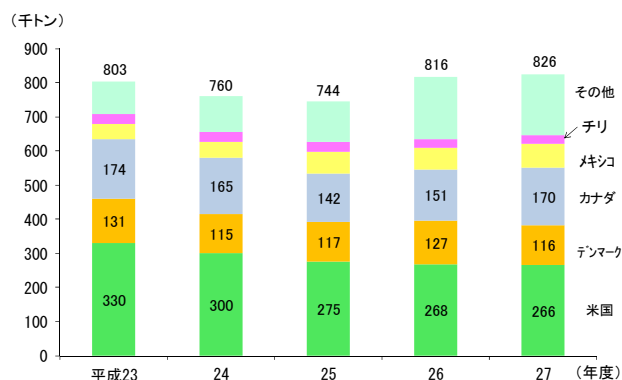


資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉ベース。

27 年度の国別輸入量は、米国産が 26 万 5800 トン（同 0.9% 減）と 4 年連続で減少した一方で、カナダ産は 16 万 9600 トン（同 12.6% 増）と 2 年連続で増加、デンマーク産は 11 万 6100 トン（同 8.7% 減）と 3 年ぶりに減少、メキシコ産は 7 万 500 トン（同 9.8% 増）と 6 年連続で増加、チリ産は 2 万 5100 トン（同 6.1% 増）となった。また、その他に含まれるスペイン産などは大幅に増加した（図 5）。

図 5 豚肉の国別輸入量



資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉ベース。

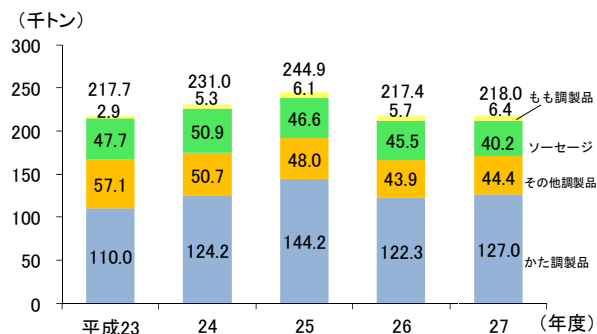
豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量について、平成 25 年度は、ソーセージが減少したものの、前年から続く冷凍豚肉の輸入量減少に伴い、特にかた調製品が大幅に増加した結果、合計では 24 万 4900 トン（同 6.0 %増）と、3 年連続の増加となった。

26 年度は、豚肉の現地相場上昇に伴い、冷凍豚肉に需要がシフトし、調製品の輸入量が減少した結果、合計で 21 万 7400 トン（同 11.2%減）と、かなり大きく減少した。

27 年度は、世界保健機関（WHO）の食品加工品に係る発がん性リスク報道によりソーセージ需要が減少したものの、豚肉調製品が増加した結果、合計で 21 万 8000 トン（同 0.3%増）と前年度並みとなった（図 6）。

図 6 豚肉調製品およびソーセージの輸入量



資料：財務省「貿易統計」

注 1：もも調製品：1602-41-090（関税率 20%）。

2：かた調製品：1602-42-090（関税率 20%）。

3：その他調製品：1602-49-290（関税率 20%）。

4：ソーセージ：1601-00-000（関税率 10%）。

◆消費

27 年度の推定出回り量は 2.8% 増加、家計消費量は 6.6% 増加

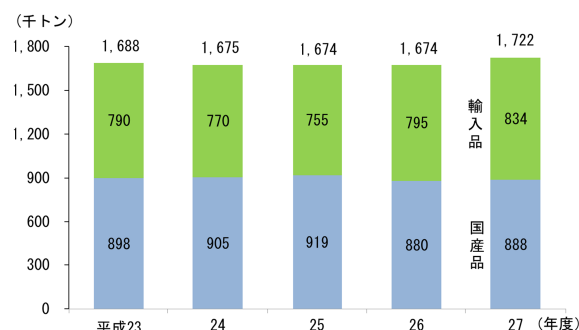
推定出回り量

豚肉の推定出回り量について、平成 25 年度の国産品は 91 万 8700 トン（前年度比 1.6%増）と、わずかに増加した一方で、輸入品が 75 万 5000 トン（同 2.0 %減）と、わずかに減少した結果、全体では 167 万 3700 トン（同 0.1%減）と、前年度並みとなった。

26 年度は、国産品は 87 万 9700 トン（同 4.3%減）と、やや減少したが、輸入品が 79 万 4700 トン（同 5.3%増）と、やや増加し、全体では前年度並みの 167 万 4400 トンとなった。

27 年度は、国産品は 88 万 7900 トン（同 0.9%増）とわずかに増加し、輸入品も 83 万 4100 トン（同 5.0 %増）とやや増加した結果、全体でも 172 万 2000 トン（同 2.8%増）とわずかに増加した（図 7）。

図 7 豚肉の推定出回り量



資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」より農畜産業振興機構で推計

注：部分肉ベース。

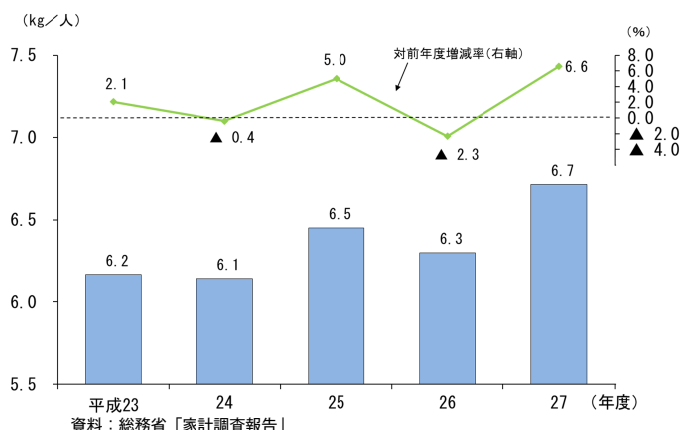
家計消費

年間 1 人当たりの豚肉の家計消費量について、平成 25 年度は、価格が上昇した牛肉からの需要シフトに伴い、前年度をやや上回る、同 6.5 キログラム（同 5.0 %増）となった。

26 年度は、相場高による小売価格上昇の影響により、鶏肉への需要シフトがあったとみられ、前年度をわずかに下回る、同 6.3 キログラム（同 2.3%減）となった。

27 年度は、牛肉高により家庭における豚肉の需要が高まっていることなどから、前年度をかなりの程度上回る、同 6.7 キログラム（同 6.6%増）となった（図 8）。

図 8 豚肉の家計消費量（年間 1 人当たり）



◆在庫

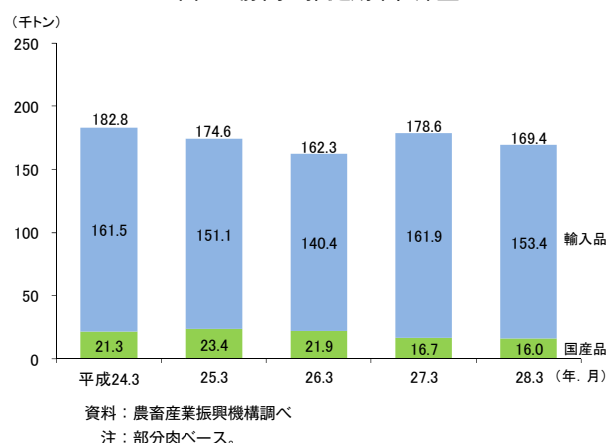
27 年度の推定期末在庫量、5.2% 減少

豚肉の推定期末在庫量について、平成 25 年度の国産品は前年度を下回って推移し、輸入品も冷凍品輸入量が減少した結果、16 万 2300 トン（前年度比 7.0%減）と、かなりの程度減少した。

26 年度は、P E D の発生により生産量が減少した国産品は、前年度を下回って推移したものの、輸入品は冷凍品輸入量の増加に伴い積み増したことから、17 万 8600 トン（同 10.0%増）と、かなりの程度増加した。

27 年度は、国産品、輸入品ともに出回り量の増加に伴い、年末まで取り崩しが進み、年明けには積み増したものの、16 万 9400 トン（同 5.2%減）とやや減少した（図 9）。

図 9 豚肉の推定期末在庫量



◆枝肉卸売価格

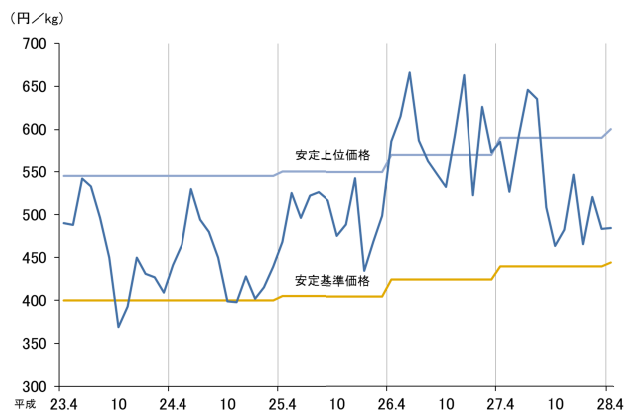
27年度の枝肉卸売価格、前年度をかなりの程度下回って推移

豚枝肉卸売価格（東京・省令規格）は、平成25年度は、生産量は増加したものの、輸入量が減少した結果、供給量は減少となったことに加え、家計消費などにおける需要の高まりから、前年度をかなり大きく上回った。

26年度は、前年度の猛暑やPED発生などにより出荷頭数が減少した影響に加え、消費増税の影響もあり、前年度を大幅に上回った。

27年度は、輸入量が増加し、さらに前年度に発生したPEDの影響から回復し出荷頭数が増加したことから、前年度をかなりの程度下回って推移した（図10）。

図10 豚枝肉の卸売価格（東京・省令規格）



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注1：消費税を含む。税率は平成26年4月1日から8%、それ以前は5%（以下、同じ）。

2：省令規格の卸売価格は、極上と上の加重平均。

◆小売価格

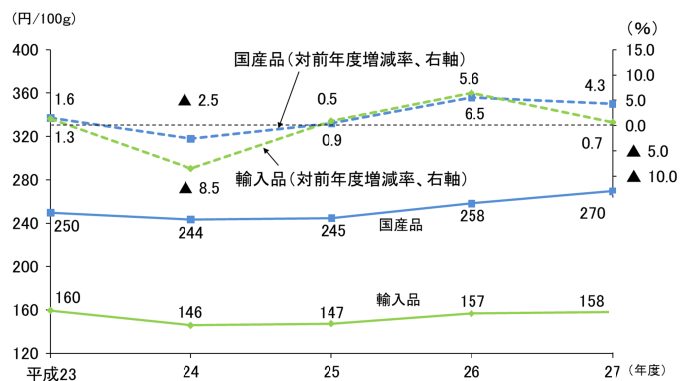
27年度の小売価格、国産品、輸入品ともに値上がり

豚肉の小売価格（ロース）について、平成25年度の国産品は、100グラム当たり245円（前年度比0.5%高）と、わずかに上昇した。また、輸入品も、冷蔵品輸入量は増加したものの、輸出国の現地相場上昇などにより、同147円（同0.9%高）と、わずかに上昇した。

26年度は、消費増税の影響に加え、国産品は生産量が減少したことから、同258円（同5.6%高）とやや上昇した。また、輸入品も為替の円安傾向や現地相場高が続いたことから、同157円（同6.5%高）とかなりの程度前年を上回った。

27年度は、国産品は生産量が増加したものの、牛肉の相場高による代替需要などから、同270円（同4.3%高）とやや上昇した。また、輸入品も冷蔵品輸入量が増加したものの、同158円（同0.7%高）とわずかに前年を上回った（図11）。

図11 豚肉の小売価格（ロース）



資料：農畜産業振興機構調べ

注：消費税を含む。